

# 能「通盛」はこんな曲

## 鑑賞ポイント

阿波国・鳴門浦で、夏の修行を続ける僧一行は、今日も夕暮れから磯に出向いて経を手向けている。

その頃、沖に老人と女を乗せて篝火を灯した釣舟が現れる。二人は舟を停め、岸から聞こえてくる読経に静かに耳を傾ける。

夜が更けて雨になり、月影もない暗闇にかすかな楫の音が響く…。僧のひとり、沖に揺れる火影に気づき釣舟を呼び寄せると、僧たちは篝火を頼りに読経を続ける。老人は「殺生のための悪しき火も、これで善火となった」と感謝し、この海は夫・平通盛が一の谷で討たれ絶望した妻・小宰相局が入水した場所だと話すと、二人は次々と海に飛び込み波間に消える。

驚いた僧は土地の者から改めて詳しい話を聞き、先の二人が通盛夫婦であったと確信して夫婦の菩提を弔う。すると、二人の霊が在りし日の姿で現れ、決戦前夜、通盛が密かに妻に会いに行ったのを弟の教経から咎められるも、妻への想いを残しながら戦地へ赴いたことや、木邨重章と差し違えて討たれた最期の様子を再現してみせ、法華経の功德により夫婦ともに成仏する。



通盛は老人の姿なのに小宰相は若いまま…これって夫の愛の魔法？いや、妻の若さへの執着？まさかの美魔女！



小宰相の最期を語り終えた二人は次々と海中へ。



### 番外情報

#### 地獄行き…って、何が悪いの？！

基本的に仏経をベースとする能には、生前の罪で成仏できない亡霊たちが、その地を訪れた僧に弔いを頼む…という、典型パターンがあります。この「罪」は仏教上の罪なので、例えば「殺生」が仕事の武士や漁師は、どんなに性格が良くても、即 NG！また、不道德だったり執着的な愛も罪なので、夫を愛し抜いた小宰相も、出家を拒み、周囲が止めるのもきかず、お腹の子もろとも自死を選んだ時点でアウト！です。他にも、酩酊するほどの飲酒、心にもないお世辞なども「罪」。…思い当たる方、ぜひ「地獄行き」にはお気を付けて！

※装束等は当日の演出により変わります。「通盛」観世喜正 / 撮影：芝田裕之

- ①平通盛は、清盛の弟・教盛の嫡男：甥にあたります。一時は中宮職も拜命し、その時一目惚れしたのが宮中一の美人・小宰相です。通盛の猛アタックにより結ばれた二人ですが、そのラフぶりには有名で、戦地にも常に帯同。弟も采れ返るほどでした。
- ②曲名は「通盛」ながら、前半はツレの小宰相の入水が語られ、後半も戦場シーンの前に、戦の前夜の夫婦の逢瀬が丁寧に描かれます…つまり、「通盛」はいわゆる戦いメインの修羅能ではなく、夫婦のドラマもたっぷり楽しめる作品なのです。
- ③場面設定は極めてシンプル。客席から観て右側が陸地、左側は海です。舟には、前にツレ、後ろにシテが乗り込むので、正面から主役はかなり見えづらいですが、舟を漕ぎ、篝火をあおぎ、果てには小宰相の入水を引き止める乳母役もシテが肩代わりします…この夫、陰でしっかり働くタイプ◎！
- ④当時、夫を失った妻は出家という道もある中、小宰相は夫や周囲の意に反しても（しかも懐妊中なのに）自死を選択。小宰相は愛欲、通盛は修羅という罪を負ってなお惹かれ合い（殺生の）罪の象徴である釣舟で再会、僧の前に現れるのです。

矢来能楽堂  
観世九阜会定例会  
鑑賞のてびき  
2022.9.11

漁りする業は蘆火と思ひしに

悪し火

弘誓言  
よき燈火に鳴門の海の  
善き火

如我昔所願  
今者已満足  
化一切衆生  
皆令入仏道  
通盛夫婦

発行：公益社団法人 観世九阜会  
http://yarai-nohgaku.com/

観世九阜会 9月定例会 @矢来能楽堂  
2022年9月11日(日)【第一部】12時半開演

狂言『舟ふな』野村 萬 能『通盛』奥川 恒治

# コノ曲、特ニ、遅刻厳禁。

早めにお席について待機されることをオススメします。

※本来、すべての曲がそうです！

恋しき人に逢ふみの国  
尋ぬる子を見ぬる寺



三井寺 中所宜夫 撮影・芝田裕之

## 番外情報

### 笹のこと、鐘のこと。

7月の公演に引き続き、今月も「狂い笹」が登場します。この笹は、主人公がつらい別れや激しい恋慕などで平常心を失い、心が乱れた「物狂い」の状態を表しています。

さて、三井寺といえば近江百景を代表する「三井の晩鐘」ですよね。現在の鐘は慶長年間に鑄造された二代目ですが、今回の『三井寺』の間狂言や、狂言『鐘の音』の、♪じゃ〜んも〜んも〜ん♪でおなじみの美しい音。実はこの鐘、誰でも、いつでも、撞くことができます。三井寺詣記念に、ぜひ本物の音色を体感してみてください！



※鐘撞き1回/800円  
特別御朱印・由緒書付き (2022.8 現在)

※装束等は当日の演出により変わります。『三井寺』中所宜夫 / 撮影：芝田裕之



能「三井寺」はこんな曲  
行方知れずとなったわが子、千満丸（せんみつまる）との再会を願い、清水寺に詣でた母は、千手観音に祈りを捧げるうちに「我が子に会いたければ三井寺へ行け」という霊夢をみる。宿の主人が迎えにきたので夢のことを話すと、夢占いでは「恋しい人に逢える、訪ねる人が見つかる」というお告げだと教えられ、母は一路、三井寺へ向かう。



- ①「三井寺」はお待たせしません！囃子方・地謡が着座した無音の舞台上に静々と現れるのは、主人公（シテ）千満丸の母。すぐにセリフが始まります。母の切々とした語りは、息子との再会を願う祈りで大切な序章。冒頭からシテのセリフで始まる曲はかなりマレです。ぜひ心静かに曲の世界に没入してください。
- ②門前の宿の主人なのに夢占いもできちゃう、女人は無用と僧に言われたのについて狂女を招き入れちゃう寺男…この曲は、前場・後場とまったく異なる二役の狂言方が大活躍。しかも、ストーリーを絶妙にリードする重要なキーマンです。
- ③場面設定は、京の清水寺↓近江の三井寺へ。三井寺の場面では、舞台上に巨大な作り物「鐘樓（しゅろう）」が登場。寺男とシテは鐘を撞く場面もあり、その「音」の違いにも注目です。
- ④たどり着いたその日は三五夜（さんごや）：3×5＝15で十五夜。煌々と輝く満月、月光きらめく鳩の湖（におのうみ湖 琵琶湖）、深く澄んだ名鐘の音を背景に、故事、古歌などを散りばめた詞章は「謡の三井寺」と呼ばれる美しさ。地名も数々織り込まれているので土地勘があるとより楽しめそう！

## 鑑賞ポイント

### 9月のシテ



「三井寺」子方 当時満9歳

能『三井寺』小島 英明 ↑

観世九阜会 9月定例会 @矢来能楽堂  
2022年9月11日(日)【第二部】15時半開演

仕舞『逆鉾』観世喜正  
仕舞『班女』観世喜之郎  
仕舞『鉄輪』坂真太郎

発行：公益社団法人 観世九阜会  
http://yarai-nohgakudo.com/